

心の栄養剤 NO231 みんな人様のお世話になっている

私は、「お経は亡くなった人を慰めるためにあるもの」と思ってきました。でも実は違うという事が、和尚になって分かりました。

「人間として生まれさせて頂いたのは奇跡」

「私たちは生きているのではなく、生かされている。生かして下さってていて全てのものが幸せになるように生きるべき」

これって、亡くなった人に言って聞かせる内容じゃありませんよね。

だから、お寺には生きている時に来てもらわなければ意味が無いと思いました。

私は、お経を長く唱えるよりも、仏教の中身の解説に力を入れることにしています。

例えば「世間」という言葉は、仏教の教えで、「我々を生かしてくれているもの」という意味です。

よく考えると、ここに生まれて呼吸して生きているのも、実はすべて「奇跡」です。

まず、宇宙の中で、この地球という星に生まれてこなければ、私は生きられませんでした。火星でも土星でもなく、水の惑星地球にご縁があったから生きていられるんです。

そして、空気、水、太陽があるから生きていられます。

お月さまも必要です。お月さまがあるから海が干満をする。生命体が生まれたのも海でした。

山も川も、鳥もいてくれなきゃいけないし、お花も咲いてくれなきゃいけません。我々はそうやって生かされているのです。

それに気づき、「ありがたい」と思ったら自然と手を合わせる気持ちになるでしょう。そこから始まったのが宗教です。

だから山や太陽に手を合わせます。でもあんまり陽が照りすぎたりしても困るので、「ちょうどよくお願いします」と祈るわけです。

人間は「人の間」と書きます。

「人様のお世話にならないと生きていけない」という事です。

ところが世の中にはへんてこな人がいましてね、「俺は今まで誰の世話にもならず生きてきた」と言い切る人がいます。

でもね、へその緒を自分で切って生まれてきた人は一人もいないし、自分で自分のお葬式をやる人もいません。

生まれてくる時も、死んでいく時も、われわれは人様の世話にならないとどうすることもできないのです。

昔、お寺は教育機関でした。そこで命を学び、「拝みあいましょう」ということで、「はい(拝)」という返事を教えました。

でも学校教育になると、「拝」と書くと宗教的だということで、カタカナの「ハイ」と書くようになりました。

すると拝みあいが無くなり、そのことで増えたのが「いがみ合い」でした。拝みあいといがみ合いは一字違いですが、中身は全く違います。

家庭で、もっと親子が拝みあう生活をしましょう。

「まさお！」と呼ばれたら、まさお君は「はい！」とお母さんを拝みましょう。

だってまさお君はお母さんのお腹の中で育ち、産んでもらったんですから。そして親は子供が産まれた事で「親」にさせてもらったんですから、親も子供を拝みましょう。

まさお君がいなかったら楽しい小学校の運動会には行けませんでした。楽しい親子のバトルもできなかった。(笑)

みんな人様のお世話になっているんです。だからお互いに拝みあいましょう。

先月、長男夫婦の元に子供が産まれました。

私たち夫婦にとっては3人目の孫という事になりますが、今回は近くに住む孫という事で、ありがたいことによく顔を見に行くことができます。そしてそのたびに、「命の奇跡」を感じ自然と手を合わせ「ありがとうございます」と言わずにはいれない不思議な感情が生じます。※この子たちの将来が平和で笑顔にあふれ、希望に満ちた世の中であることを心より願い祈る毎日です。